

29 放射線科における質の確保について考える

AMG 越谷誠和病院

○笹川 拓也

1. 目的

AMG（上尾中央医科グループ）放射線部では放射線科の目標・技師個人の目標・技師の能力評価（ラダー）の管理運用を行っており、当院放射線科におけるその取り組みについて紹介する。

2. 方法

まず放射線科の年度目標を、病院理念や病院の年度目標、AMG放射線部の目標を参考にしながら立案します。この放射線科の年度目標を立てるにあたって具体的な数値目標などを上げると客観的な評価が可能となります（図1）。

目標期間の具体的な内容	数値目標	前1年（前期）		
		4月	5月	6月
専門・認定資格取得の奨励	資格取得者4名 (AMG認定資格:2名)	予定 2名		
放射線科人事考課・ラダーの修正	ラダーの修正と 年2回の実施	予定 1名1回	ラダー修正 1回実施	
一人ひとりが目標を持って研修会に参加する	1人あたり3回以上の 研修会参加	予定 1名1回	実績 1名1回	3名1回
放射線科でプロジェクト目標	前年対比+10%増 (1380万円/月)	予定 110%	110%	120%
検査MEDLの安定稼働	890件/年 (前年対比+12%)増	予定 110%	110%	100%

図1：放射線科 年度目標例

技師の職能評価（ラダー）については、放射線科業務全般に関する評価や、各モダリティの習熟度を客観的に評価する項目を策定し、中間と年度末の年2回自己評価と上司評価が行えるようにフォーマットを作成して使用しています。

また評価の段階は、初心者のジュニアレベル・中級者のシニアレベル・指導者の専門レベルの3段階にわけて自分がどのレベルか判定できるようにしてあります（図2）。

評価項目	ジュニアレベル(4)		シニアレベル(3)		上司 評価	自己 評価
	評価内容	評価基準	評価内容	評価基準		
知識	専門知識・業務知識の習得が完了している。業務の遂行に必要となる知識が十分にある。	正確に理解している。	専門知識・業務知識の習得が完了している。業務の遂行に必要となる知識が十分にある。	正確に理解している。	4	4
技能	業務内容のすべてを正確にこなしている。	正確にこなしている。	業務内容のすべてを正確にこなしている。業務の遂行に必要となる知識が十分にある。	正確にこなしている。	4	4
姿勢	業務内容について積極的に発言し、意見を述べられている。また、業務改善の提案を行っている。	正確にこなしている。	業務内容について積極的に発言し、意見を述べられている。また、業務改善の提案を行っている。	正確にこなしている。	4	4
責任	業務内容の責任をしっかりと負っている。	正確にこなしている。	業務内容の責任をしっかりと負っている。業務の遂行に必要となる知識が十分にある。	正確にこなしている。	4	4

図2：職能評価（ラダー）例

この放射線科年度目標と個人の職能評価（ラダー）をもとに、各個人が年度目標を立てて業務に取り組んでいます。個人目標は、モダリティ別に具体的な目標と達成基準、放射線科や病院業務に関する目標、認定資格などに関する目標の3項目としています。これらを自分で設定し、達成期間も決めることで個人の目標意欲も高まります（図3）。

図3：個人年度目標例

3. 結果・結語

3月・4月に放射線科年度目標と個人目標を立て、8月・9月に中間のラダー評価と個人面談にて目標管理、2月・3月に年度末のラダー評価と個人面談にて目標の最終評価を行って、次年度の目標に繋げるというPDCAサイクルを構築することができました。ラダーも目標も客観的な評価を可能としたことで、個人の業務への意欲向上に繋がり、評価者も評価がはつきりとできるようになりました。

特にこの職能評価（ラダー）は、個人の現在の技量を判定するだけでなく、新人や新しいモダリティを勉強する時の習得すべき具体的な目標として使用することも可能です。今後は、認定資格なども組み入れ、より総合的な評価が可能なものに仕上げたいと考えています。またこのような評価方法が広がり定着することを期待したいと思います。